

事業名 飯村隆彦 ビデオアート作品のデジタル化と修復事業

・団体名 特定非営利活動法人ビデオアートセンター東京

・概要（含む課題）What&Why

実験映画、ビデオアート、メディアアート分野の草分け的存在である飯村隆彦（1937-2022）のビデオ・テープ作品のデジタル化及びアーカイブ作業を行います。ユネスコが警鐘を鳴らしているように、Uマチックとβカム方式など初期の磁気カセットテープの磁性体の劣化と再生ヘッドの生産停止により、今後再生が不可能になることが危惧されており、速やかなダビングとデジタル化が急がれます。

本事業では飯村隆彦の作品が収録されているカセットテープをデジタル・データに変換し、リスト化を行った上で修復を施し、その芸術的功績を次世代に残し、また国内のメディアアートの貴重な資料としてアーカイブ化を試みるものです。



・体制／手法（解決方法）How

飯村隆彦のテープ作品約500本を対象に、経年劣化によるテープ部分の切断やカビの付着したものに対し、物理的な修復を施し再生可能にした状態でダビングを行いました。アナログのテープからデジタル・データ化された動画ファイルに対し、作品ごとに画質と音質の保存の良いものを選定し、アーカイブ用のベストコンディション版としてデータを作成しました。またそこから作品鑑賞に支障を来すと思われる音声・映像上のノイズを軽減するなどデジタル上の修復を行った上で、ハイヴィジョン・サイズにアップスケールを施し、現状の映像メディア再生環境に合わせた上映用データを作成しました。

デジタル化したデータは複数のハードディスクに動画形式を変えた上で保管し、作品リストを作成、今後の飯村のビデオ・テープ作品の展示・上映・研究などに役立つ環境を整えました。

飯村は同一タイトルの作品を年代ごとに再制作する形で何度か作品化しており、作業はまず全テープを物理的修復してデジタル・データ化するところから始まりました。そこから複数のスタッフでテープデータに入っている作品が、いくつバージョンがあるのか、いつのどのバージョンなのか、またその中で画質・音質が良いものはどれなのかを選定する作業を進めていきました。ベスト・コンディション版を選定するにあたって、同名タイトルの複数データを並列上映しや透過させて重ねるなど細かな編集や画質の差異を見ていき、画像を拡大表示してピクセル上の滲み（ダビングを重ねると滲み、オリジナルに近いほど明確に表示される）や音声の



波形データの幅（ダビング時に増幅すると音割れを起こし、オリジナルに近いと適正な音量で録音されている）も検証材料としました。それらの比較検討の根拠を残すために作品ごとの調書を作成しました。

その上で、テープのケースやラベルに飯村自身が書き残した表記を参考にし、主に「マスターテープ」の表記

がある素材をアーカイブのベスト・コンディション版としつつも、そのテープの保存状態が良くない場合は、

上映用のコピーから良質なものを選んでそれとしました。初期のテーブデッキの機種や操作の問題で、飯村自身が制作編集の際に、例えば音声の左右チャンネルを間違えたまま収録され、自身のメモとして上映時にそれらを逆にケーブル接続することが注意書きされているテーブがあり、アーカイブ用のベスト・コンディション版作成にあたって作者の当初の意図を汲んだ音声に整えたデータを作成しました。また、テーブが切断してしまい作者のメモでも「再生不可」と書かれていたテーブに関し、カセット内部を開けてテーブ接合するなど物理的な修復を施し、長年見ることができなかったと思われるテーブ内容を視聴できるようにしました。特にカセットテーブに長尺録画ができるようになった時期のテーブは、テーブの厚みが薄く設計されているため、何度も切れてしまう傾向があり作業を困難にさせました。

・成果（公開・成果物について）

上記の手法によって、飯村が1970年代より手掛けてきたビデオアートの作品から、彼自身が同一テーマでいくつかの作品を時代ごとに作り直していった作者の細かな制作意図や、編集違いの差異、また制作のプロセスをより明確にさせることができました。

また、アーカイブ用のベスト・コンディション版から修復し、ハイヴィジョン映像となった飯村作品の完全版や未公開作品を展示やオンラインにて一般公開を行っています。アーカイブ化された作品一覧をレゾネ・カタログとしての印刷物と、WEB上でのリスト公開の両方で閲覧可能な状態にしています。

・成果（社会・産業に向けての意義、見込まれる社会的利用等）

[展覧会・映画祭での公開]

令和5年2月

・ベルリン国際映画祭2023アート部門にて飯村隆彦の特集展があり、本アーカイブ作品から4作品提供

・東京都写真美術館 飯村隆彦特集にて本アーカイブ作品から5作品提供

令和5年3月

・MORI YU Gallery京都「飯村隆彦 ヴィデオ・フィールド」回顧展にて本アーカイブ作品から10作品以上を提供

[オンラインでの公開]

飯村隆彦アーカイブサイト（ビデオアートセンター東京）随時更新

<https://vctokyo.wixsite.com/info/iimura-archive>



・成果（課題）残課題

今回対象としたUマチック、βカム方式のカセットテーブのほか、それらの後継記録メディアだったVHSやミニDVなども同様に再生が不可能になってきます。今後はそれらのテーブも対象に飯村隆彦が晩年に撮影した映像素材や作品などのデジタル化を進める必要があると考えます。

・成果（本年度にこだわらない事業の最終ゴール）

作品テーブが一本のみ残されている作品があるなか、過去の展覧会カタログやリストに掲載されていながら今回のテーブ群からは発見できなかった作品がありました。飯村の制作スタジオに今なお眠るフィルム、ビデオ、その他のメディアによる作品、資料を紐解くことで、飯村作品のみならず同時期に活動したアーティストや映画作家などの息吹をきちんと後年に残していく必要があると考えます。